

銀漢亭日録



伊藤伊那男

12月31日(水)▼十時まで寝る。持参した緑茶。晴。外は椰子の風景。家族の部屋で朝食。読書。うとうとして、午後プールサイド。十九時、家族の部屋に小川・清水一家集まり忘年会。ステーキ焼く。持ち寄りの料理あり。紅白歌合戦見る。日本より一時間早く年明け。ホテルの広場に花火が揚がる。京都から持参の年越し蕎麦。
1月1日(木)▼十時、ホールにて餅つき大会。振舞い酒の孤樽割り。戻って雑煮で新年会。
2日(金)▼午後、プールサイドで読書。新年俳句大会選句など。ニュースで日本大雪と。
3日(土)▼今日も選句、テレビ、酒、プールサイド。夕食、小川・清水一家とホテルのレストラン。終日曇天。時々、シュノーケル。ここに来ないとケラム島に来た気がしない。帰路、韓国料理「世宗」にて夕食。
4日(日)▼コパームビーチで一日。潮風に当たり、時々シュノーケル。帰路韓国料理店「世宗」にて夕食。
5日(月)▼ホテルのグラウンドに三浦カズ、北沢豪が自主トレに来ているのを見学。午後ウエスティンホテルのプール。イラストレーターの長友啓典さん来て一緒に夕食。
6日(火)▼夕方の便で成田へ。家族はあと二日間滞在。帰宅すると郵便の山、FAXも沢山。
7日(水)▼洗濯、宅急便受け取り手配、FAXやりとりなど。仕込みあり。十二時、家を出る。「きざらぎ句会」「宙句会」本年初営業にて客多し。有難いこと。
8日(木)▼年賀状の宛名書きなど。遅れている。発行所「十六夜句会」、店、堀切克洋君、明日フランスへ帰るとて十人ほど集まって句会。賑やか。家族帰国。

あと大野田好記君と「伊豆栄」の鰻で献杯。「吉池」にて店用の乾物など購入。店、告別式帰路の矢島太郎先生が御長女と寄つてくださる。井月の話、堀内会長の話など。西村和子さんお弟子さん他と四人。対馬康子さんみえて合流。山崎祐子さん。
21日(水)▼妻の命日。朝、雪がちらつく。(久女忌は妻の忌やはり雪催)店、金融会社時代の同僚五人集まる。「三水会」四人。そへ伊那の小池百人、お嬢さんと寄つてくれる。加藤恵介君と自家で漬けた野沢菜を届けてくれる。うまい！
22日(木)▼旭硝子の古川さん、中国勤務から戻ったと久々。「天為俳句会」あと……など。皆川丈人さん盤水先生の本多数と新年会への祝い金届けてくださる。
23日(金)▼発行所「月号」発送。あと「門」同人句会に貸し出し。十三時半「俳句」三月号の巻頭グラビア「俳人の時間」の撮影。鈴木忍編集長とカメラマン。三カットが載ることになる。「門」句会あと「金星句会」。店は「雛句会」十三人程。坂口晴子さんの友人、福岡の長淵恵子さん来店。対馬康子さん。沢田和也、黒岩徳正さんなど。水内慶太、新海あぐりさん……など、久々盛況。
24日(土)▼「銀漢俳句会」年次総会新年会」。全国家電会館の年次総会あと湯島天満宮にて祝宴。馬鹿殿スタイルで通す。百人を超える皆さんが集まり盛況。あと銀漢亭に三十六人来て二次会。あと八人ほど近くの店……。村田郁子様より新年会の祝い金戴く。
25日(日)▼昼から妻光代を偲ぶ会。兄夫婦、妻の妹一家。京都から和田ちゃんも。愛媛から取り寄せの河豚など。丸九年となる。
26日(月)▼予約も何も無い日。長淵恵子さん来てくださる。三省堂の飛鳥さん久々、五人。清人さん漫画「まるでだめお」の作者森田拳次さんと。名刺の裏に絵とサインをいただく。店に巾着茄子を届けていただいている新潟の若井新一さん、俳人協会賞受賞を知り祝いの電話。
28日(水)▼駅頭にて山田洋次監督とすれ違う。店、井ノ口さん、伊那市長白鳥氏と。市長、高遠の桜の案内のボスター。お多福豆セツトの土産いた

9日(金)▼家族、午後から甲府の両親に年賀へ。一泊と。慌たしい人達！店、毎日新聞の鈴木啄磨氏久々。井月本の刊行を喜んでくれる。「大倉句会」十二人。
10日(土)▼井上井月顕彰会堀内会長逝去の報、九十四歳。昨秋、伊那のお屋敷に皆でお訪ねしたのが最後。誠に残念。店のトイレのタンク不調にて入れ替え。クーラーも今月入れ替えと。ああ、金のかかること。運営委員会、昼、「いもや」の海老天、ああ、また胸焼け。「銀漢本部句会」五十六人と盛況。あと「庄屋」にて親睦会二十人ほど。
11日(日)、12日(月)▼年賀状の宛名書き、その他、二月号校正、雑用の二日間。
13日(火)▼ようやく年賀状投函。新宿駅にて武田編集長に二月号の校正稿渡す。店、礼奈さんが琉球大学生で「銀化」同人の安里琉太君連れてくる。「火の会」十人。「門」主宰の鈴木節子さん飛び入り参加。「春耕」池内けい吾、袖口満さん、俳人協会「新年賀詞交換会」のあと。その他、対馬康子、鳥居真里子さんなど。皆川文弘さん酒持つて新年の挨拶に来てくれる。「雲の峰」酒井多加子さんから手製の吊るし柿沢山届く。
15日(木)▼冷たい雨の一日。「銀漢句会」、会場が飯田橋だったので打ち上げはその近くのことと、いつもり少ない数名が来店。全体開散。「爽樹」環さん井月本出版祝いに花持参して下さり、十冊注文あり。
16日(金)▼「鳶句会」あと四人。角川新年会あとの本井英、武藤紀子、麻里伊、今井肖子、浅井民子、小島健、山田真砂年、阪西敦子、新海あぐり、菊田一平、天野小石さんなど。
17日(土)、18日(日)▼家族、早朝から苗場へスキーに。「春耕新年俳句大会」の選句、選評。全国俳誌協会誌へエッセイ。銀漢新年会用の色紙、短冊。折角墨をすつたので二十枚ほど書く。
19日(月)▼伊那北高校同期「三水会」より、出版祝いに胡蝶蘭到来。「演劇人句会」八人。谷岡さん父上急逝と。
20日(火)▼午前中、寛永寺輪王殿にて井月顕彰会堀内功会長の告別式。

だく。丁度、大野田さんも来ていて皆で高校時代の思い出話など。宮澤、伊勢神宮の河合宮司他と。河合さん井月本の出版祝いとてミキト製のボールペン「真珠」が飾られていて何とも洒落！。「銀漢」への基金も。
29日(木)▼「俳句」編集長の鈴木忍さん「銀漢亭」の一日マ。第五木曜日が空いているとのことと本日第一回。聞き付けた俳句関係者多数集まる。最後、郡司社長も。次回の忍マ四月三十日。
31日(土)▼「雛句会」。あと若筈山椒味噌焼、河豚の唐揚げ、河豚と野菜の炊き合わせ。握り。酒は「三千盛」。過労と寒風でヘトヘト。
2月1日(日)▼十時間以上寝る。動作緩慢。「春耕同人句会」は休むことに。ただし、三月号の原稿は何としても書かなばならぬ。寝たり、書いたり、何とか仕上げる。家族は新横浜の日帰り温泉へ。久々、酒抜く。というか、飲めず。
2日(月)▼体調戻る。孫のうち三人、各々スキーツアーへ(乗鞍、木島平、志賀)。店、「かざぎ俳句勉強会」あと十二人。白田亜浪と。政三さんが長岡の酒「柏露」を入手。長岡藩最後の奥方の興した酒。大阪の凌雲も参加。あと凌雲、敦子、文子と一杯。
7日(土)▼三笠書房の押鐘会長より、かねてより一献とのお誘い戴いており、私の都合に合わせてくださり、小野寺清人さんの設営で、十六時半、荒木町「しほ瀬」。河豚料理。森崎森平さんも。鱈酒、見事。四回のつぎ酒に耐える！帰路、ついつい新宿で蕎麦屋に寄つてしまふ。ああ、また食欲中枢神経が……。
8日(日)▼春耕新年俳句大会に高幡不動へ。盤水先生の墓前に御慶。石井隆司氏と久々。氏が井上本執筆を勧めてくれたのである。川澄大僧正井月本読んだと声を掛けて下さる。二次会は駅前のいつもの蕎麦屋。朝妻力さん他。
10日(火)▼権守勝一さん逝去の報。享年八十五歳。「俳壇」パーティーあと、慶太、真砂年、新海あぐり、一平、佐怒賀直美さんなど寄つてくれる。国会議員のT先生、久々。苦しい選挙だった！野党ながら勝つたと。井月本の出版喜んでくれる。